



## 宮司プレス第百三十二号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成三十年 三月二十一日

◇宮司の柴田です。 春光（しゅんこう）次第

に地に満ちて、日増しに暖かさを覚える折節（おりふし）であるはずですが、「寒のもどり」の冷え込みが、厳しい昨今です。 「月一回発行の軌道修正」という大目標への道のりは、なかなか厳しいようです。 しかしながら、「千里の行（こう）も足下（そっか）に始まる」という諺（ことわざ）にあやかりまして、「今年こそは毎月発行」という達成可能な目標にシフトし、大目標の足がかりにしたいものです。お待たせしました。 宮司プレス百三十二号の発行です。

◇今日は、春分の日です。 太陽の運行に従った節目の日であり、「春分」「秋分」「夏至」「冬至」をもって「三至二分」といい、旧暦（太陽太陰暦）では重要な節目の日でした。また、太陽が、春分点や秋分点を通過し、真東から出て真西に沈み、昼夜の時間がほぼ等しい日でもあります。 そして、前後の三日間が、彼岸、今日が中日ですので、「お彼岸の中日」です。 ちなみに戦前は、春季皇霊祭と称していました。 現在でも宮中では、

中三殿のひとつである皇霊殿において、天皇皇后兩陛下皇族によって、執り行われています。今日は、御先祖様に感謝を捧げ、さらなる御加護を願う、「先祖祭（せんぞまつり）」、麗しい日本の伝統的な家庭儀礼の日です。日本人の道徳である、「敬神崇祖（けいしんすうそ）」、さらに、生活の古典ともいえるべき「しきたり」です。

◇過日、自家用車のタイヤを冬用から通常用に替えました。 月に一回のペースで、美称の社会復帰促進センターでの教誨（きょうかい）活動を行っていますので、ごくまれではありませんが、路面凍結（とうけつ）を想定しなくてはなりません。 確か、平成二十八年の一月と記憶

してはいますが、高速道路の中国自動車道は、冬タイヤ規制でしたし、小月インターチェンジから美称社会復帰促進センターへの道のりは、見渡すかぎりの雪景色でした。 冬タイヤを装備（そうび）して、「本当に良かった」と、奏功（そうこう）した思い出があります。

◇さて、みなさん、「風花（かざはな）」という言葉をご存知ですか。 「かざばな」ともい

ますが、年に数回しか積雪を観測しない私共の地域では、馴染（なじ）みの薄い言葉です。 それもそのはずで、晴天にちらつく雪、風上（かざかみ）の降雪地（こうせつち）から、風に送られて、まばらに飛来する雪のことです。 季語（きご）は冬で、初冬の風が立って、ちらちらと降る雪や雨のことでもあります。 何年か前に、急逝（きゅうせい）された作家の葉室麟（はむろ りん）さんの著作で、その「風花（かざはな）」にちなんで「風花帖（かざはなちよう）」という小説を読了（どくりよう）したことがあります。

主人公が、苦境に立たされた時に、「風花」を見て、心が救われる思いを致すのです。 それは、雪は、紛（まぎ）れも無い純白で、何にも染まらない純粹な美しさを保ちながら、ちらちらと飛来するのです。 しかし、その純白

で無垢（むく）な雪も、地に積もれば、泥（ね)にまみれたりしながら、本来の純白さを失ってしまいます。 人も同じなのでありまして、神様（かみ）からたまわった美しい身体（からだ）と心が、世の中の不浄なるものに触れて、本来のものを損（こ)なす（そこ）なってしまうのです。 宮司プレス既刊号（きかんこう）にも記述（きじゆ）したことがあります。 宮司プレス「伊勢神道（いせしんどう）の度会延佳（わたらい のぶよし）さんは、「人は神から神性を受けて生れてきたので、その本性を失うような生き方をしてはいけない」と述べています。

したがって、その主人公は、どんなに苦しく辛い時でも、「風花」のような美しさに心を打たれ、「風花」のようにありたいと願い、救われる思いを致したのです。人は、皆、未熟者、未熟者とわかっているから、懸命に努めようと励む姿こそが、「風花」であり、「本性を失わない生き方」、まさに、清々しい生き方なのではないでしょうか。

◇ところで、宮司プレス前号に、防寒談義の件（ぐだり）を掲載しました。今月に入り、私も自家用車と同じく、長袖の肌着から半袖の肌着にチェンジしました。これで、肘までまくるといふ姑息（こそく）な手段でなく、正々堂々と敬礼作法にかなった、「身だしなみ」「服装」での御奉仕ができます。私は、「三（さん）そう」、二つの「そう」をととても大事にしています。一つめは、前述（ぜんじゆつ）の「服装」、決められた装束（しようぞく）、不敬にならない身だしなみ、清潔な装束（しようぞく）で御奉仕をすることです。ふたつめが、「人相（にんそう）」です。これは、もつてうまれた顔のことではなくて、明るい笑顔のことで。神社神道は、前向きに人生を楽しむという心構えも信仰の大きな柱ですので、笑顔をやさず、神様を喜ばす心で人に接し、地域社会が笑み栄えるようにつとめなければなりません。まさに、「神喜人喜地喜（じんきじんき

ちき）」が、「人相」なのです。そして、一番大事なのが、三つめの「情操（じようそう）」、心です。心の乱れは、そのまま、服装や人相にも影響を及ぼしてしまいます。「風花」の心を忘れないようにしなければなりません。

◇民族滅亡の「三つの原則」があるそうです。その三つとは、「理想を失った民族」、「価値を金銭に求める民族」、「歴史を忘れた民族」だそうです。今日の「お彼岸の中日」は、少し大げさですが、日本人が決して滅びない、理想を失わず、お金にかえられないかけがえの無いものに価値を見出し、歴史伝統文化を大切にすることを確認する大事な日ではないかと思えます。「三そう」の心がけを忘れずに、「風花」のような清々しい生き方で、「神喜人喜地喜」の運命共同体としての地域社会が構築されますように。

#### ◇二月の祭典行事報告

- ▼月次祭 \*二月一日、十五日
- ▼貴布禰神社月次祭 \*二月一日
- ▼節分祭 \*二月三日
- ▼紀元祭 \*二月十一日
- ▼祈年祭
- 当宮 \*二月十七日
- 六連島八幡宮 \*二月二十五日
- 田の首八幡宮 \*二月二十七日
- ▼海上自衛隊敷設艦「むろと」航海安全祈願祭

\*二月十九日

- ▼福浦稻荷神社初午祭 \*二月十九日
- ▼朝粥会 \*二月二十一日
- ▼柴田宮司家祖霊祭 \*二月二十六日
- ◇二月の宮司の行事会議等活動報告
- ▼八幡宮関係団体

- ◆神道会世話人会 \*二月二十四日
- ▼山口県神社庁、同下関支部関係

- ◆山口県神社庁下関支部幹事会 \*二月七日
- ◆山口県神社庁役員会 \*二月十二日
- ◆山口県神社庁例祭 \*二月十三日
- ◆巡回社頭講話研修会 \*二月二十二日
- ▼西ロータリークラブ

- ◇例会 \*二月十七日、二十八日
- ▼講演活動

- ◇下関市倫理法人会MS \*二月十四日
- ◇人権教育指導者研修会 \*二月二十日
- ▼教誨活動、美祿社会復帰促進センター
- ◇集合教誨(男子) \*二月二十六日

- ▼人権擁護委員人権相談 \*二月五日
- ▼西山小出前講座(三年生) \*二月八日
- ▼玄洋中学校CS \*二月十三日
- ▼西山小学校CS \*二月二十一日
- ▼下関木鶏クラブ(月刊「致知」感想発表会)

- ◇二月例会 \*二月一日
- ▼迫町自治会
- ◇防災訓練 \*二月二十八日